

木曾ペインティングス

～宿場町と旅人とアートの至福な関係～

会期：2017年6月3日—7月2日

会場：宮ノ越宿・福島宿・上松宿

長野県木曾郡木曾町・上松町

<http://www.kisopaintings.com>

■ 概要

タイトル：木曽アートフェスティバル 木曽ペインティングス

会期：2017年6月3日（土）—7月2日（日）

開催地域：長野県木曽郡 ▶宮ノ越宿 ▶福島宿 ▶上松宿

会場：本陣 / 旧田中邸 / 山吹館 / わんぱく村 / やぼら清水公園 千村の蔵・上村の蔵
ねざめ亭 / 木曽路美術館

主催：木曽ペインティングス実行委員会

後援：（一社）木曽人 / 木曽町教育委員会 / 在日メキシコ大使館 / 日義公民館 各分館 / 日義自治協議会

協力：NPO 法人 手をつなぐメキシコと日本 / （株）中善酒造店 / 木曽町地域おこし協力隊 / 地域住民のみなさん

【参加作家】

伊藤美緒 今村仁 岩熊力也 鹿島理佳子 菊地風起人 木村俊幸 胡桃沢千晶 近藤太郎 高澤日美子 鶴澤舞 新野伽留那 藤原裕策 宮嶋結香 山本聖子 若林菜穂

【参加ゲスト】

泉原昭人（ハンズボン映像展）今度和やるぞう（スコップ三味線公演）櫻井陽子（さる屋主宰）
ハコボ&マリア・アンヘレス（メキシコ民芸木工作家）ポンちゃん人形（腹話術公演）

■ 木曽ペインティングスとは

木曽ペインティングスは2016年9月に立ち上げられ、同年10月アーティストの胡桃沢千晶と藤原裕策を講師に迎え開催したワークショップ、「窓辺で光るトランスパレント紙のスタンドグラス」からスタートしました。

木曽ペインティングスとは、年に1度の展覧会イベント、アートフェスティバル「木曽ペインティングス」と、1年に複数回開催するワークショップを合わせて「木曽ペインティングス」とし、毎年開催します。

■ なぜ木曽で開催するのか

現在のアートの中心地である東京と京都の中間地点である木曽は、かつて中山道を多くの旅人が往来し、宿場には東西の文化やトレンドがもたらされ、住人と旅人が賑やかに交流した場所です。

平成28年には中山道名称統一300年を迎え、中山道を迎える旅人を見掛ける事も増えつつある今、「場」の記憶に思いを寄せて木曽の地に東西よりアーティストが集結し自然に触れ住民との交流を通して木曽をテーマに制作し展示を行います。アートを介してアーティストは木曽への理解を深め、住民は木曽を再発見し、都心では決して生まれることのない芸術が木曽から生まれることを願い、この地で木曽ペインティングスを開催します。

■ 展示会場紹介



● 宮ノ越宿・本陣

中山道三十六番目の宿場として 1601 年に整備された宮ノ越宿。その中心に残る本陣。明治十六年の大火により居住部分を焼失するも客室部分は残り、平成二十八年に復元工事を終え開館する。

【展示作家】 伊藤美緒 / 菊地風起人 / 近藤太郎 / 若林菜穂



● 宮ノ越宿・旧田中邸

田中家は宮ノ越宿の旅籠であったが明治十六年の大火で焼失。その後再建され住居として利用された。平成二十六年には修復復元工事が行われ、地域の交流の場として今に至る。

【展示作家】 胡桃澤千晶 / 高澤日美子 / 藤原裕策



● 宮ノ越宿・山吹館

かつては地区の公民館として使われ結婚式なども行われたが、いまは多世代交流プラザ山吹館として屋内ゲートボールや祭りの練習などで利用される施設。

木曽ペインティングス開催中にはこの大広間にアーティストたちの手による異空間を出現させ、自由参加型市場「やまぶきバザール」を開催する。

【展示作家】 岩熊力也 / 木村俊幸 / 宮嶋結香 / 山本聖子



● 宮ノ越宿 美しき里 わんぱく村

「美しき里 わんぱく村」は子供たちが遊びながら自然を学ぶ場を作ろうと耕作放棄地だった 6.5 ヘクタールにツリーハウスやビオトープなどを造成。子供たちの秘密基地やブランコなどがある。

【展示作家】 今村仁



● 福島宿 やばら清水公園（千村の蔵・上村の蔵）

木曽地方を治めた山村代官に仕えた千村家の住宅一帯を公園として整備。各種イベントやワークスペースとして利用されている。

【展示作家】 鹿島理佳子 / 新野伽留那



● 上松宿 木曽路美術館

木曽唯一の美術館として、1982 年に開館。創立者丸山利喜次の上質な芸術作品鑑賞の場を提供し、木曽の芸術文化と一里塚でありたいとの願いが込められ設立された。眼下に名勝寝覚の床を望み、頭上には木曽駒ヶ岳を仰ぎ見る恵まれた立地において近代絵画、彫刻、陶磁器、そば猪口、浮世絵といった、様々なジャンルの作品を展示する。

【展示作家とゲスト】 木工芸アプレハス作家：ハコボ&マリア・アンヘレス / さる屋主 宰：櫻井陽子 / NPO 法人 手をつなぐメキシコと日本：高澤日美子

■理念

「宿場町」を「祝場町」に

「この国においては、ヨーロッパのいかなる国よりも、芸術の享受・趣味が下層階級にまで行きわたっているのだ。どんなにつつましい住居の屋根の下でも、そういうことを示すものを見いだすことができる。……ヨーロッパ人にとっては、芸術は金に余裕のある裕福な人々の特権にすぎない。ところが日本では、芸術は万人の所有物なのだ」

渡辺京二の「逝きし世の面影」に引用されている明治維新期に来日したオーストリア・ハンガリー帝国の外交官ヒューブナーの言葉である。しかし時代は全てを押し流しこの国は急変する。かつて共に日本を訪問した友人モースにあててピゲロウは手紙を記す、

「(モースの研究対象である)腕足類などは溝へでも棄ててしまえ。君と僕とが四十年前親しく知っていた日本という有機体は、消滅しつつあるタイプで、その多くはすでに完全に地球の表面から姿を消し、そして我々の年齢の人間こそは、文字通り、かかる有機体の生存を目撃した最後の人であることを、忘れないでくれ。この後十年間に、我々がかつて知っていた日本人はみんなベレムナイツ(化石としてのみ残る頭足類の一種)のように、いなくなってしまうぞ」

幕末明治の近代の夜明けが破壊しつくしていったものの大きさを想う。欧化政策という急激な方向転換は庶民から芸術を奪っていった。政府とその方針に従った芸術家たちが価値の基盤を置いたのは自分たちが生まれ育んできた生活空間とは何の関係もない遠い異国の文化でした。こうして日本の庶民空間から芸術は姿を消し、一部の特権階級とインテリたちの所有物となっていきます。それから150年、事態は何も変わっていません。いまや芸術は巨大なグローバルマーケットで意味不明の価格で取引されるモンスターとなっている。

もう一度生活の中から始めなければならない。私たちが突き動かしたのはそうした想いです。かつてあった生活はすでに絶滅したかもしれませんが、私たちのDNAの中にはしっかりと書き込まれ保存されているはずです。そしてそれを始める舞台として今回私たちが選んだのは宿場町という空間でした。

中世において町ができあがるそのはじめには市場があったといいます。河原や中洲、そして山と平地の境などはあの世とこの世の境であり人間と人間以外の領域との境でもありました。そしてそこは村境でもあった。市がたつのはそういった場所でした。そこで外から来た人と物を交換した。市をたてる時人々はまず神を祭ったといいます。そして神を喜ばすために様々な芸能が行われた。遊行の聖や遍歴する芸能民がやって来た。日常から切り離されたあの世とこの世の境で神仏と入り乱れ賑やかにすごしていたのです。そして村に福をもたらした後は去っていきます。

木曾ペインティングスにおけるアーティストもまた外から祭りのためにやって来て、地元で福をもたらしたら去っていく、現代の遍歴する芸能民であるともいえます。

今回、京と江戸の中間点にあたる日義の宿場町を舞台に西と東からアーティストが集結し、滞在して制作します。様々なイベントを行う中で住民と交流し木曾という土地への理解も深めるでしょう。都市では決して生まれることのない芸術が木曾の生活の中から生まれることを願ってやみません。

「宿場町」とは「祝場町」ではないでしょうか。

生活と芸術の関係を取り戻すために木曾ペインティングスがすべきこととは「場」を「祝う」ことに他ならないのではないのでしょうか。

そんな祝場町で住民と旅人とアーティストがめぐり逢う。始まりはいつだってシンプルだ。

展示会場地図



【会期中の催事】

- ・6月3日 旗挙プロジェクト（旗挙八幡宮、他） / やまぶきバザール（山吹館） / 開会式・作家自己紹介（本陣） / オープニングイベント 今度和やるぞう・スコップ三味線公演、ポンちゃん人形・腹話術公演、泉原昭人・ハンズボン映像展（義仲館）
- ・6月3日—7月2日 展覧会（本陣・旧田中邸・山吹館・万ぱく村・やばら清水公園千村の蔵と上村の蔵）
- ・6月4日 アーティストトークツアー（本陣スタート） / やまぶきバザール（山吹館） / オープニングイベント ポンちゃん人形・腹話術公演、泉原昭人・ハンズボン映像展（ねざめ亭）
- ・6月22日—25日 ポニータ・オアハカ Vol.3（木曾路美術館）
- ・6月24日、25日 やまぶきバザール（山吹館）

会場へのアクセス

	中央本線（特急・スーパーあずさ）	中央本線（東海/名古屋方面）	
●新宿駅	——— 塩尻駅	——— 宮ノ越駅	
	2時間30分	45分	
	高速バス（新宿—木曾線）	中央本線（東海/松本方面）	
●バスタ新宿	——— 木曾福島駅	——— 宮ノ越駅	
	4時間15分	9分	
	東海道新幹線	中央本線（特急しなの）	中央本線（東海/名古屋方面）
●新大阪駅	——— 名古屋駅	——— 木曾福島駅	——— 上松駅
	50分	1時間25分	7分

※ねざめ亭・木曾路美術館へは上松駅または木曾福島駅から上松町コミュニティバス倉本線「ねざめ」下車すぐ。

■ 構成

木曾ペインティングス展覧会

○展覧会会期 2017年6月3日～7月2日

○地元商店とのコラボ【岩熊力也 菊地風起人 鶴澤舞 宮嶋結香】

○アーティスト展示会場

・本陣【伊藤美緒 菊地風起人 近藤太郎 若林菜穂】・旧田中邸【1階 高澤日美子 / 2階 胡桃澤千晶 藤原裕策】・山吹館【岩熊力也 木村俊幸 宮嶋結香 山本聖子】・わんぱく村【今村仁】終日開催
・やばら清水公園 千村の蔵【鹿島理佳子】 / 上村の蔵【新野伽留那】

○開催時間と休日

本陣・旧田中邸・山吹館 9:00-16:00 (月曜休み) / わんぱく村 終日開催 / やばら清水公園 千村の蔵と上村の蔵 9:00-17:00 (月曜休み)

ボニータ・オアハカ Vol.3

オアハカ（メキシコ）からメキシコ伝統民芸である木工品の作家を招き木彫りの動物などに天然着色料で緻密な文様を描き入れるアレブリヘスや、オアハカの民芸品作家の手で一つ一つ丁寧に作られたハイクオリティの刺繍や陶製などの民芸品（さる屋セレクト）を木曾唯一の美術館、木曾路美術館にて展示販売します。

会場では、2015年に秋篠宮両殿下とローマ法王に作品を献上したメキシコを代表するアレブリヘス作家のハコボ&マリア・アンヘレスによる制作工程のデモンストレーションとワークショップ、オアハカの民芸品を日本に紹介する活動をするさる屋主宰・櫻井陽子氏と美術作家・NPO 法人手をつなぐメキシコと日本のメンバー高澤日美子氏のトークも予定しています。

○展覧会会期 2017年6月22日～25日 10:00-16:00 会期中無休

○参加ゲスト さる屋主宰：櫻井陽子/ アレブリヘス作家：ハコボ&マリア・アンヘレス/ アーティスト：高澤日美子

○展覧会会期中毎日ハコボ&マリアさんによるデモンストレーションとワークショップを開催、6月24日には櫻井陽子氏と高澤日美子氏によるメキシコの文化と美術についてのトークを開催します。

ワークショップ

木曾ペインティングスにおいてアーティストが企画し住民が参加するワークショップは、展覧会イベントと並ぶ2本柱の大切なひとつです。

2016年10月に開催した胡桃澤千晶・藤原裕策による「窓辺で光るトランスパレント紙のスタンドグラス」から始まり、2017年4月23日には高澤日美子によるワークショップ「わたし・ぼくたち ぼく・わたしたち」は第3回目を迎えます。

5月7日には東京の美術大学学生などによる「ニョキニョキ花咲か木曾キッズ!」、続いて5月14日には今村仁による「球にボールに描こうよ絵」などのワークショップが次々と開催されます。

オープニングイベント

展覧会イベントは祭りの要素を取り入れ、初日には開催地域が旗挙げの地であることに因み色とりどりののぼり旗を掲げて宿場町を練り歩く「旗挙げプロジェクト」を行います。希望者が誰でも参加できる「やまぶきバザール」では装飾された異空間が立ち現われ市場となります。そしてレセプションでは義仲館で地元芸人・今度和やるぞう「スコープ三味線公演」、ポンちゃん人形の「腹話術公演」、泉原昭人・「ハンズポン映像展」では短編映画の上映会を開催し住民と観光客と作家たちが交流する場となります。

地元商店とのコラボ企画

地元商店の商品に、木曾ペインティングス参加アーティストがラベルなどのデザインをして期間限定商品を作成し販売します。

地元商店とのコラボレーションで、木曾地域内外の方に展覧会イベントと木曾の名産品両方をアピールします。

■ (株) 中善酒造店 創業 1865 年 (慶応元年)

【銘柄の中乗さんとは？】江戸時代木曾の深山では杣人が木を伐りだし、その木材は川幅が狭く流れの速い木曾川を一本一本流し尾張藩まで届けたという。その木材の真ん中に乗っていた人が「中乗さん」。命を懸け木曾川を下ったその時代のスーパーマンです。

(株) 中善酒造店×鶴澤舞 (ラベル案)



(株) 中善酒造店×岩熊力也 (ラベル案)



旗挙げプロジェクト

木曾ペインティングスのメイン会場となる宮ノ越地区は木曾義仲の旗挙げの地です。土地の記憶と共に、展覧会の幕開けを地域住民と観客、参加アーティストたち皆で祝い、アートフェスティバル「木曾ペインティングス」をスタートします。

住民共同で作られたのぼり旗に参加者がそれぞれの「志」と「名前」を書き込み、旗挙八幡宮での祭事後、色とりどりの旗を掲げ「旗挙げ」をし、その後宮ノ越地区を練り歩きます。のぼり旗は各展覧会会場に立てられ会期終了まで木曾ペインティングスのシンボルとなり、来年へ引き継がれます。のぼり旗への書き込みは当日のほか、福島宿や宮ノ越宿の3会場で受け付けます。

やまぶきバザール

山吹館の大広間にアーティストたちの手による異空間を出現させ、自由参加型市場「やまぶきバザール」を開催します。

展覧会は毎日開催、週末には市場が立ち並びステージではライブやマジックショーなども開催されます。

現在決まっている市場出店者は、松本を拠点に活動する女性作家6人のユニット Pom Pom、天然石を使ったマクラメアクセサリーを制作する Hatakeyama Tomoaki、コットンパールや天然石などを使ったアクセサリーを制作する Nasturtium、作家の作った雑貨 sakka * zakka などを販売する tienda ni modo など。

アーティストトークツアー

展覧会2日目、展示作品に纏わるエピソードや作家との交流を通じて美術に親しみを持ってもらうようアーティストと参加者が展示会場である本陣、旧田中邸、山吹館を観客と一緒に回るアーティストトークツアーを開催します。

わんぱく村とやばろ清水公園などの展示は本陣のモニターを使い紹介します。

顔はめ看板

展示会場の庭などにアーティストが制作した顔はめ看板を設置します。

歴史を感じる宿場町の景色を背景に顔はめ写真撮影を楽しんでもらい、インスタグラムなどで発信してもらうことで更に木曾と木曾ペインティングスに訪れる人が増える事を期待したいと思います。

■作家紹介

今村仁 IMAMURA JIN

1971年 東京生まれ 画家

TSA(東京芸術専門学校)卒業・Bゼミスクーリングシステム修了

おもに円形のキャンバスに顔をモチーフとした作品を制作。

人間におけるユーモア・諧謔・嗜虐的な側面を、絵画という形式をとおして形象化する。版画・立体作品も制作し、個展・グループ展にて発表をつづける。



岩熊力也 IWAKUMA RIKIYA

1969年 東京生まれ

1990年 日本大学芸術学部映画学科中退

1992-93年 イタリア・フィレンツェに滞在

1997年 Bゼミ終了

2004年 (財)ポーラ美術振興財団在外研修生としてメキシコシティに滞在

2008年 VOCA展 2008 大原美術館賞

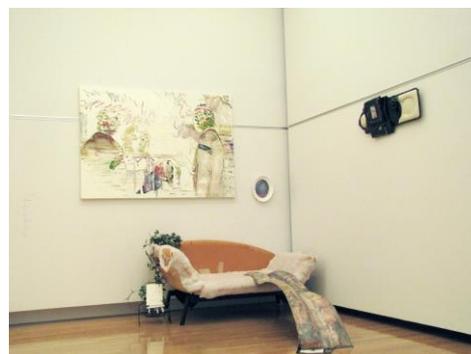
イメージを水で洗い流した残像としての絵画や、歴史や伝説に取材したその断片から新たな物語を紡ぎだし展開したインスタレーションなどを国内外で発表。日本という社会空間における絵画表現の在り方を探る。



木村俊幸 KIMURA TOSHIYUKI

1969年生まれ。近年は「MATIM」と冠したシリーズで個展を開催。

イメージの世界と現実空間とが奇妙に接続し、夢の続きを醒めた眼で眺めるような空間演出が特徴。映画「-L-」(2016年公開)の世界観を映画の古典的な特殊撮影の技法マットペインティングで描いた事でも知られる。

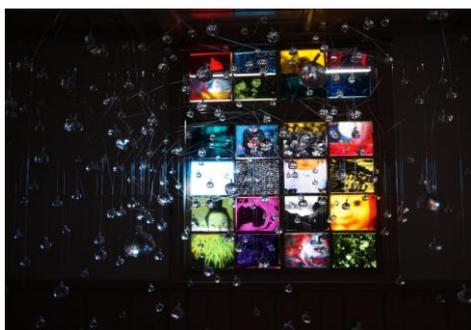


胡桃澤千晶 KURUMIZAWA CHIAKI

1994年 多摩美術大学 絵画科陶芸専攻

卒業後、「水」に注目した

作品を展開。無数の水の玉によるインスタレーション作品や、人それぞれの持つ歪みをテーマに、水を通して撮影した写真や映像などの作品を発表。



高澤日美子 TAKASAWA HIMIKO

東京都生まれ

1993年創形美術学校実技専科絵画コース修了。

1995年メキシコへ移動、1996年メキシコ国立絵画彫刻版画学校“ラ・エスメラルダ”入学。2000年、Bienal Nacional Diego Rivera コンクールにおいてドローイング部門入賞。2002年上記美術学校“ラ・エスメラルダ”修了、2010年Licenciado en Artes Plásticas取得。2007年より日本在住。個展の他、様々なグループ展に参加。制作の傍、NPO法人“手をつなぐメキシコと日本”に於いてメキシコと日本の文化芸術交流活動に務める。



藤原裕策 FUJIWARA YUSAKU

1995年 東京芸術大学 油絵科修士課程卒業後、個展を中心に活動し、国内外の多数のグループ展に参加。板に彩色と彫りを施した独自の技法による「板画」を中心とした平面作品や、インスタレーション等を製作。



宮嶋結香 MIYAJIMA YUUKA

1985年福島生まれ

2009年女子美術大学芸術学部洋画専攻 卒業

2015年 HB Gallery Competition Vol.26 藤枝リュウジ特別賞

2016年 HB Gallery Competition Vol.27 永井裕明大賞

動物を多くモチーフとして独自の視点から描いていく。

国内外で個展、グループ展多数。



山本聖子 YAMAMOTO SEIKO

大阪府在住。

2006年 京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術表現専攻 修了

2004年 大阪芸術大学芸術学部美術学科立体コース 卒業

2011年 六甲ミーツ・アート芸術散歩 2011 公募大賞

2011年 Tokyo Midtown Award 2011 アートコンペ グランプリ

2004年 学長賞(大阪芸術大学卒業制作展)

均質的に区画整理されたニュータウンを支配する独特の空気や、その街や人間、生活の在り方などに対する違和感を制作の出発点にしている。代表的な作品に、不動産チラシなどで使われる「間取り図」をそぎ落とされた情報として用いたシリーズがある。近年はメキシコやオランダでの滞在経験から、身体性や現代におけるアイデンティティの在り方について考察した映像作品など、新たな手法を展開している。



若林菜穂 WAKABAYASHI NAHO

1991年東京生まれ 2013年武蔵野美術大学造形学部油絵学科入学
在学中主に絵画を制作。

グループ展や個展にて作品を発表。

物事の間合いに生じるムードや距離感を絵画制作により捉えることを試みる。

また、均質化の進む時代における固有性について考える。



伊藤美緒 ITO MIO

1995年 鳥取県生まれ

2013年 大分県立芸術文化短期大学 美術専攻卒業

2013年 武蔵野美術大学編入学 現在在学中

最近、夜明け前が気になっています。目にうつるものや、考えていることが一番愛おしく思える時間帯のように感じます。知らない内に大切になっていたものや、それに気づく瞬間を絵にしたいです。



菊地風起人 KIKUCHI FUKITO

1995年北海道生まれ

2014年武蔵野美術大学油絵学科入学

最近は一世代前の有名人などの写真などを油絵にしてきました。

カメラ目線と飾らない笑顔がとても気持ちよく、現代には無い感覚が好きです。この頃は自分の本質的な部分を模索する作業を試みており、油絵に関しても変化していきそうです。



近藤太郎 KONDO TARO

1995年生まれ

神奈川県伊勢原市出身

武蔵野美術大学油絵学科新4年

主に自分の空想のイメージを油絵で描きます。最近では空間と身体、絵画の関係になんとなく興味があります。



鶴澤舞 TSURUZAWA MAI

1993 年大阪生まれ

2014 年武蔵野美術大学造形学部 油絵学科入学 現在在学中
絵画を中心に制作。

今回はワークショップ、イラストレーションを通じて参加させていただきます。知らない土地で新しいプロジェクトに関われることとても楽しみです。



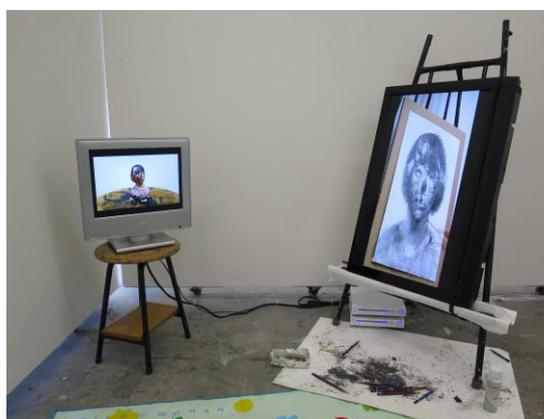
鹿島理佳子 KASHIMA RIKAKO

1996 年 東京生まれ

2015 年 武蔵野美術大学油絵学科油絵専攻 入学

現在 在学中

不可逆に対する抵抗をテーマに、作品と作者、モチーフとメディウムなどが対応関係を結びながら作品が完成に向かうプロセスを重視し、メディアを問わず制作を行う。



新野伽留那 NIINO KARUNA

1993 埼玉県生まれ

2015 武蔵野美術大学 造形学部 油絵学科油絵専攻 入学

現在 在学中

大学のゴミ箱に捨てられていた木片を拾って人間に見立てたり、人間関係に見立てたりして制作していました。これからまたどうするかわかりません。絵を描くと思います。



泉原昭人 IZUHARA AKIHITO

岐阜県飛騨市出身。Macintosh によるインタラクティブ作品や映像を使ったインスタレーションを発表しつつ、2005 年より短編アニメーションの制作に入る。精緻に描かれたアニメーションはこれまでに、ベルリン国際映画祭をはじめ 50 を超える国際映画祭で上映。短編映画を自主上映する「ハンズボン映像展」を企画。



ポンちゃん人形 PONCHAN NINGYOU

1979 年静岡県出身、腹話術師。
子供から大人までどの世代も笑える面白い腹話術を追求。各種イベントから寄席やお笑いライブまで多岐に渡り出演する。
キャラクターの面白い人形に加え、道具を駆使した腹話術なども披露。

出演メディア テレビ東京「イツザイ」、NHK「パフォー」、TBS テレビ「N スタ」、夕刊フジ「今週の東西ご推笑」

出演舞台

浅草東洋館、国立演芸場、新宿末広亭、各種企業イベント(三越伊勢丹ホールディングス、レセプションなど多数) 新年会、忘年会、敬老会、小学校、幼稚園、祭り、ショッピングセンター、被災地の慰問、その他イベント多数。



ハコボ&マリア・アンヘレス

オアハカ(メキシコ)出身。

メキシコを代表するアレプリヘス(木工民芸品)作家夫妻。

2015 年 10 月秋篠宮両殿下に作品献上

2015 年 12 月ローマ法王に作品献上

メキシコシティなど国立博物館には彼らの緻密な作品が多数展示される。国内外からの招待も多く、アメリカ、ヨーロッパ、日本でも彼らのファンは多い。

工房では技術を学びたい若者に門を開き、現在では 100 人もの職人や見習いが働いている。

木彫りに使うコパルの木(サポテコ族の聖なる木)の減少に対し、毎年 5000~7000 本ものコパルの木を植える活動をしている。



■お問合せ先

木曽ペインティングス実行委員会

長野県木曽郡木曽町日義 4898-522

Mail : kisopaintings@gmail.com

HP : <http://www.kisopaintings.com>

FB : <https://www.facebook.com/kisopaintings>

※以上の内容につきましては3月時点での情報になります。今後開催内容に変更する可能性もございますので、ご掲載くださる際にはご面倒でもご一報いただけますようお願いいたします。また、下記の広報用画像をJPGで用意しております。必要な場合は上記メールまでご連絡ください。



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11

1 フライヤーデザイン/2 木曽ペインティングスロゴ/3 ハンズボン映像展プログラム/4 ハコボ&マリア作品アレブリス/5 やまぶきバザールロゴ/6 地元商店コラボ企画・菊地風起人作品/7 ハコボ&マリア/8 旗挙げプロジェクトの為の竹の切り出し/9 山本聖子参考作品/10 胡桃澤千晶・藤原裕策によるWS「窓で光るトランスパレント紙のスタンドグラス」/11 顔はめ看板・岩熊力也作品（イメージ）